

誠に申し訳ございませんが、以下の箇所の訂正をお願い申し上げます。

ページ	箇所	訂正内容	
		訂正前	訂正後
16	b. 全反射	②入射角が臨界角 (入射角が90°のときの屈折角)	②入射角が臨界角 ( <b>屈折角</b> が90°のときの <b>入射角</b> )
20	(1) β線の相互作用 BOX内 後方散乱	β線が軌道電子と衝突した際、質量が同じ電子同士であるため、β線自体も散乱され入射方向に戻る現象。	β線が原子核のクーロン力により弾性散乱を繰り返した結果、はじめの入射方向と逆方向に進行する現象。
22	3) 放射性核種 BOX内 放出放射線	⑤ <sup>40</sup> K β線(高) ⑥ <sup>60</sup> Co β線(低) ⑦ <sup>90</sup> Sr β線 ⑩ <sup>131</sup> I β線(高) ⑪ <sup>137</sup> Cs β線(高)	⑤ <sup>40</sup> K β線 (高)を削除 ⑥ <sup>60</sup> Co β線 (低)を削除 ⑦ <sup>90</sup> Sr β線(高) ⑩ <sup>131</sup> I β線 (高)を削除 ⑪ <sup>137</sup> Cs β線 (高)を削除
23	(1) 放射平衡のBOX 過渡平衡の欄 成立後の原子数の特徴	$\frac{N_B}{N_A} = \frac{T_B}{T_A - T_B}$	$\frac{N_B}{N_A} = \frac{\lambda_A}{\lambda_B - \lambda_A}$
	(1) 放射平衡のBOX 永続平衡の欄 成立後の原子数の特徴	$\frac{N_B}{N_A} = \frac{T_B}{T_A}$	$\frac{N_B}{N_A} = \frac{\lambda_A}{\lambda_B}$
27	4) エンタルピー 文章1行目	エンタルピーとは、 エンタルピーとは、 系のもつ総エネルギーを示す。	エンタルピーHとは、 一つ一つの分子が持つエネルギー (内部エネルギーU)と、それらが集 合した時に持つ、形態によるエネル ギーp・Vの合計である。ただし、p を圧力、Vを体積とする。
31	1) ギブズエネルギー と化学ポテンシャル 文章1行目	多成分系の～	一般的に、多成分系の～
36	一番下の行	一般式として、 蒸発曲線、昇華曲線、融解曲線はい ずれも	融解曲線を削除
44	真ん中右側の表	極限モル伝導率の大小関係	溶液の濃度0.01 mol/Lにおけるモ ル伝導率の大小関係
		極限モル伝導率	(極限を削除)モル伝導率

ページ	箇所	訂正内容	
		訂正前	訂正後
92	屈折率のグラフ		
	グラフ右側の説明	r: 臨界角: 入射角が90°のときの 屈折角	※臨界角: 屈折角が90°のときの <b>入 射角</b>
111	検出器のBOX内 電子捕獲検出器 (ECD)の特徴欄	・ <sup>3</sup> H、 <sup>63</sup> Niなどのβ線源を用い、キ ャリヤーガスの窒素を陰イオン化 し、～	・ <sup>3</sup> H、 <sup>63</sup> Niなどのβ線源を用い、キ ャリヤーガスの窒素を陽イオン化 し、～
180	1) 典型元素と遷移元 素 1行目	周期表において、1族、2族と13 ～18族を典型元素、3～11族を遷 移元素という。	周期表において、1族、2族と12～ 18族を典型元素、3～11族を遷移 元素という。 ※注釈: 12族は遷移元素に分類され ることもあるが、本書では典型元素 に分類する。
183	(1) 活性酸素 BOX内	ヒドロキシラジカル (OH <sup>-</sup> )	ヒドロキシラジカル ( <b>・OH</b> )
321	表 糖原性ケト原性	イソイシン、フェニルアラニン、 チロシン、トリプトファン、リシン	イソイシン、フェニルアラニン、 チロシン、トリプトファン ※リシンを削除
	表 ケト原性	ロイシン	ロイシン、リシン